

第5回 水道施設整備基本計画策定委員会 会議概要

1. 開催日時

令和3年7月15日(木) 午後2時から午後3時まで

2. 開催場所

福島市飯坂町字沼ノ上1番地の1

福島地方水道用水供給企業団 大会議室

3. 出席者

(委員)

佐々木委員長、田村委員、安食委員、石川委員、佐藤委員、黒沢委員、鈴木委員(代理)、宍戸委員、寺島委員

(事務局)

菅野総務課長補佐、佐藤契約管財係長、片平施設管理課長補佐、松谷施設第二係技査

(受託者)

(リモート)成井、山下、山田、佐藤、忠平 (現地)斎藤

4. 議題・議事概要

【水道施設整備基本計画書(案)について】

(1) 水道施設整備基本計画策定委員会経過

- ・事務局より委員会資料「水道施設整備基本計画策定委員会経過」を用いて、これまでの委員会の開催状況、経過について概要説明を行った。

(2) 水道施設整備基本計画書(案)の概要説明

- ・事務局より委員会資料「福島地方水道用水供給企業団水道施設整備基本計画【要旨】」(以下、「要旨」と称す)を用いて、基本計画書(案)の概要について説明を行い、内容について協議を行った。

(議事概要)

- ・委員 A: 本編と概要版で相違のある箇所が見られるが、概要版の修正漏れと考える。

→該当箇所を確認し、概要版の修正を行う。

- ・委員 A: 第4回の委員会資料に対する質問でも挙げたが、各施設の L2震度階を示してほしい。同様に、前回の質問で出した内容について反映した箇所を教えてほしい。

→第4回の質問・回答について確認し、後日必要に応じて修正対応を行うこととしたい。

- ・委員 A: 令和11年度に資金不足が生じることについて、何らかの手当を行うとされているが、それを考慮した財政シミュレーションについて示してほしい。

→事務局としては、令和5、6年度に策定予定の第7期財政計画(令和7～9年度)において新たな財源確保の検討を行い、財政シミュレーションを実施する計画としている。

→委員 A:A 市では令和7年度までの財政計画を策定中であり、今すぐにも企業団の財政シミュレーションを確認したい状況である。第7期と言わず、第6期財政計画の参考資料という形で良いので早めに今回のアセットマネジメントの結果を踏まえた財政シミュレーションを示してほしい。

→委員長:事務局からは回答しにくい内容のため、検討課題としたい。

・委員 B:資本的収支において資本的収入を見込まない、起債を考えない理由は何か？

→補助金のメニューで採択できるものがないため資本的収入を見込めない。起債については、現時点では考えられない状況であるが、今後の検討課題として財政計画検討において再整理を行いたい。

・委員長:委員 A から出された確認事項については事務局で責任を持って一部修正対応を行うとし、基本計画書(案)について委員会承認を得た。

(3) 今後のスケジュールについて

・事務局より公表に向けたスケジュールについて説明を行い、協議を行った。

・事務局の方で7月27日に企業長へ説明を行い、その後、副企業長、各議員へ説明する予定である。

(議事概要)

・委員 A:公表していくという話だが、資金不足となる状況で資料公表となると多方面へのハレーションが危惧される。新たな財源確保を踏まえた財政計画とセットでの説明とすることをお願いしたい。

→委員長:財政計画と併せて来年の2月に公表としてはどうかという意見か？

→委員 A:財政計画とのセットでなければ、説明不足のままでの公表となる。

・事務局としては追加配布資料「水道施設整備基本計画における財政計画との関係」に示すような財政計画のスケジュールを想定している。

→委員 A:基本計画書(案)において、アセットマネジメントの結果を利用すれば収支の整理だけ追加で行えば財政シミュレーションを出せるのではないかと考えるが。

→前回の経営戦略は平成27年度に策定しているが、準備期間としては2か年間をかけており、構成団体と意見調整、合意形成を行う必要があるため、第6期財政計画の公表時にアセットマネジメントの結果を踏まえた財政シミュレーションを示すことは難しい。

→委員 A:料金値上げが必要と考えているため、構成団体のコンセンサスを得る必要があるため、シミュレーションを出せないという事か。

→料金値上げを前提とした検討を行うものではないが、慎重に検討、算定を行うべき問題と考えている。

→委員 A:市の財政計画を策定している状況では、出せないという事は承諾できない。

→委員 C:委員 A と同様の意見であり、資金不足が生じるという推計が出されている状況で町長へ説明を行うことができない。アセットマネジメントの結果を踏まえた財政シミュレーションを町としては期待したい。

→財源の手当でも踏まえて、構成団体のコンセンサスを取りながら、7期を検討し作成していきたい。

→委員 C:7期でやる、2年間かけてやるのであれば、やむを得ないと思われる。

→委員 A:令和11年度に資金不足が生じることに對する手当として、受水率を100%にする、更新需要

を減額する等の手当てを行った場合に、資金不足になる時期をどのくらい遅らせることができるのか等について財政シミュレーションを行って確認したい。

→各構成団体のビジョンも踏まえ検討していく必要があるため、物理的に難しい。

・委員長：公表の在り方については、事務局で預かりとし、企業長と協議、対応検討を行いたい。

→7月30日の水道担当課長会において、7月27日の企業長説明の結果について報告するものとしたい。

以上